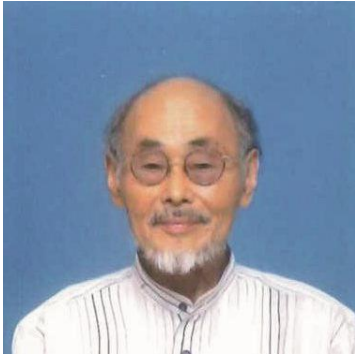


## 《特別寄稿》

# 「子どもの本・九条の会」の これまでとこれから

丘 修三

\*今年9月9日が土曜日にあたったせいか、「9」にひっかけて憲法9条に関連した反戦や平和のイベントがいくつか目につきました。「子どもの本・九条の会」による秋の勉強会「いま、沖縄から」もその一つです。私たちの「フォーラム・子どもたちの未来のために」とは思いを共有するところもある「子どもの本・九条の会」について、発起人のお一人である丘修三さん(写真下)から原稿をお寄せいただきました。(編集部)



2004年6月、井上ひさし・大江健三郎氏ら9氏は、日本国憲法九条の「改正」の動きに警鐘を鳴らし、「改憲」のくわだてを阻むための一人ひとりの努力を呼びかけました。これに呼応する形で、全国にたくさんの「九条の会」が生まれました。「子どもの本・九条の会」もその一つです。

この会は「平和あつての子どもの本」と考える、子どもの本の作家・画家・出版関係者、さらに読書運動にたずさわっている人を中心に、2008年4月発足しました。

「子どもの本・九条の会」が現憲法を大切なものとするのは以下の理由からです。

子どもが絵本や物語を楽しむためには、少なくとも三つの条件が必要だと考えます。第一に平和である事。戦時下の子どもを想像してください。第二に貧困でない事。貧困は子どもたちの読書の楽しみを奪います。第三は表現の自由が保障されていること。言論統制下の子ども文化は、子どもの物ではなくなります。

現憲法はこれらの条件を、第二章戦争の放棄、第三章国民の権利義務で保障しています。従って、私たちはこの憲法を擁護すべきだと考えました。

その考えから、各地で結成された九条の会では、見落とされがちな、子ども文化の面から、発言していきたいという思いでした。戦争や貧困で、一番被害を被るのは子どもたちであるのに、一番発言力のないのも子どもたちなのですから。

発足から十五年、私たちは「広める」「深める」「つなぐ」という三方面の活動を続けてきました。『広める』活動としては、一般公開の「憲法擁護の集い」の開催（年一回）、会報（9ぞうればと）の発行（年2回～3回）「戦争と平和の子どもの本」展示会や朗読会など…

『深める』活動では、講師を招いて公開の「学習会」の開催、そして『つなぐ』活動としては、ほかの団体との共催事業など、子ども文化の側から、現憲法護持の運動を展開してきました。

その間、『9ゾウくんげんきかるた』（ポプラ社）の製作販売や、絵本画家による憲法条文の絵画展を、全国で巡回展示を展開したり、それを画集としてまとめた『戦争なんか大きらい！』（大月書店）という本を出版したりしました。

コロナ禍の三年は、集会は持てず、会報の発行とオンラインでの学習会を続けました。オンラインは、地方の会員も参加でき、運動の新しい展開の可能性に気づきました。

今年も9月9日に、「いま、沖縄から」と題して、沖縄在住6人の方に、それぞれの問題意識と活動を報告していただき、沖縄を扱った絵本の読み聞かせなどの学習会を開催しました。

さて、「子どもの本・九条の会」が発足して十五年が経ちました。その間、私たちの願いもむなしく、我が国の指導者たちは、憲法を無視し「戦争のできる国」に舵を取ってしまいました。「憲法九条」は「絵にかいた餅」となってしまいました。私たちは何をしてきたのか、何ができたのか、何ができなかったのか、私には



「我々なりに抵抗してきた」としか言えません。

でもまだ、希望はあります。世論調査によると、現憲法護持の方が5割以上いて、戦争を忌避する感情は8割がたあり、政府の進めようとする方向には反対の方が勝っています。この人たちに思いを伝え繋がりうる方策を考えながら、諦めることなく進まねばなりません。

会の発足時の代表団の十二名の先輩方の多くは故人となり、直接会に関わっているのは、私のみ

『戦争なんか大きらい！』大月書店 になってしまいました。それでも会はしっかり動いています。千名を超える会員が、会を支え続けているからです。新しい発想と行動力で、「子どもの本・九条の会」は、今後とも、当初の目的を護持し進むことでしよう。目に見える成果は少なくとも、諦めることなく。

この夏は、長引くウクライナの戦争、世界的な異常気象、かつてない規模の風水害や山林火災などをニュースで知るにつけ、ある言葉が何度も脳裏に浮かびました。それはアメリカの建築家で哲学者のバックミンスター・フラワー氏のいう「宇宙船地球号」です。人類は宇宙に漂う「地球号」に乗る運命共同体である。戦争なんかしてる場合ではないのだと。

(おか しゅうぞう：1941年生。特別支援学校教師を経て作家生活に入る。日本児童文学者協会会員。「子どもの本・九条の会」創設に関わる。作品に『ぼくのお姉さん』『口で歩く』『けやきの森の物語』など)

~~~~~

### 【読者の皆さんへ】

★2019年の4月以来ほぼ月に1回のペースでお届けしてきました「フォーラムニュース」ですが、今号以降しばらく休刊させていただきます。

★「フォーラム・子どもたちの未来のために」は2013年の「特定秘密保護法」に対する児童書関係者有志による反対声明をきっかけに2014年に結成されたものですが、近年メンバーの高齢化・固定化は避けがたく、その活動も従前のようにはいかなくなってまいりました。

★私たちはフォーラムニュースの発行回数を含め、今一度足元を見つめ直し、その活動のあり方を再検討する所存です。

★子どもたちに「平和で民主的な社会」を残していきたいという私たちの思いは不変です。焦らずあきらめることなく私たちにできることを模索しながら新しい活動についてはまたあらためてご報告いたします。その日までしばしご猶予をください。ありがとうございました。

### 「フォーラム・子どもたちの未来のために」実行委員会

●映画「福田村事件」を観てきました。関東大震災の5日後、千葉県で実際にあった、朝鮮人と誤認した行商団虐殺事件を扱ったものです。隠された「負の歴史」を告発する、というメッセージ性だけでなく、その時代に生きた人間たちの「性と生」を見事に描いた傑作だと思いました。劇中「鮮人（＝朝鮮人）なら殺してもいいんか」と叫ぶ行商団のリーダーの言葉が重く響きます。興行成績もよく上映館も増えている由。多くの人に観てもらいたい作品です (o)